

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

| | |
|--------------------------------|-----------|
| . 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| . 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| . その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | |
|-------|------------------|
| 事業所番号 | 4691400032 |
| 法人名 | (株) ケイシン |
| 事業所名 | グループホーム たるみず太陽の家 |
| 訪問調査日 | 平成20年10月7日 |
| 評価確定日 | 平成21年1月27日 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人NPOさつま |

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 10月13日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|---|-------|------------|
| 事業所番号 | 4691400032 | | |
| 法人名 | (株) ケイシン | | |
| 事業所名 | グループホーム たるみず太陽の家 | | |
| 所在地 | 垂水市浜平字高尾ノ下2189-6番地 (電話) 0994-32-5030 | | |
| 評価機関名 | 特定非常利活動法人NPOさつま | | |
| 所在地 | 鹿児島市下荒田2丁目48番13号 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年10月7日 | 評価確定日 | 平成21年1月27日 |

【情報提供票より】(20年 9月 14日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|---------------|---------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 19年 10月 1日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 9 人 | 常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 | 7.8人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|--------|-----|-------|
| 建物構造 | 木造造り | | |
| | 1 階建ての | 階 ~ | 1 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|---------------|----------------|----------|
| 家賃(平均月額) | 25,800 円 | その他の経費(月額) | 1日 310 円 |
| 敷 金 | 有(円) | 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり 860円 | | |

(4) 利用者の概要(9月 14日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 9 名 | 男性 | 3 名 | 女性 | 6 名 |
| 要介護1 | 1 名 | 要介護2 | 6 名 | | |
| 要介護3 | 1 名 | 要介護4 | 1 名 | | |
| 要介護5 | 名 | 要支援2 | 名 | | |
| 年齢 | 平均 80.4 歳 | 最低 | 71 歳 | 最高 | 88 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-------------------|
| 協力医療機関名 | 沖縄徳州会垂水病院 なぎさ歯科医院 |
|---------|-------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道より少し入った場所にあり、海に面して開発された住宅地の中に開設されているホームである。開設されたばかりのホームであるがホールで過ごしている利用者の表情は明るく笑顔が満ち溢れている。穏やかに過ごしている利用者の姿に、管理者、職員の思い(利用者の笑顔を第1に)を1つにして、あたり前の日常生活に近づけるための援助行為を工夫と心で具体化しようと真摯に取り組んでいる事がうかがえる。寝たきりの利用者が車椅子、手すりでのつたい歩き、歩行器などで介護度が改善されて、本人に笑顔がもどり、家族などや職員の喜びとなっている。また突然の竜巻の災害に地域の人々の惜しみない協力と援助に職員は地域に支えられている事を実感している。ケアの充実と本人、家族など、地域の人々との協力関係を築きながら、地域密着型サービスの充実を目指しているグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 今回初回の外部評価である。 |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 管理者、職員は評価の意義について話し合い全職員で自己評価に取り組み、ケアサービスの向上と振り返りの機会としてとらえている。職員のローテーションの工夫を…などの意見が出されて検討をしている。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) |
| | 会議は定期的に開催されている。地域高齢者との交流を深めるために出された提案は、体育大会への参加や奉仕作業、公民館に集いしめ縄作りをするなどへの参加呼びかけがあり実践している。開設間もないホームであるが協力関係や理解が得られつつある。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) |
| | 玄関に意見箱を設けている。苦情処理ファイルを作成しており、意見が記録されている。面会時に職員は話す機会を作り、意見の出しやすい雰囲気づくり心がけている。家族からの要望に対応し運営に反映している。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 地区の体育大会や奉仕作業に参加している。また地域資源(消防署、交番)との協力関係も構築している。保育園の運動会、小学校の卒業式見学や慰問、公民館で地域の人々としめ縄作りをするなど地域の一員として積極的に取り組んでいる。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|--|--|-------|----------------------------------|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| | | 地域密着型サービスとしての理念 | | | |
| 1 | 1 | 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 利用者が今までの生活を継続できるように、寄り添いながら生活し、地域の人たちとの深い絆を結べるように支える理念を開設時に作り上げている。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 管理者は常に勉強会や申し送り時に理念を活きた方針として語っている。職員は理念を共有しながら日々のケアに活かしている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地区の体育大会や奉仕作業に参加している。また地域資源との協力関係も構築している。保育園の運動会小学校の卒業式見学や慰問・公民館で地域の人々としめ縄作りをするなど、地域の一員として積極的に取り組んでいる。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 初回の自己評価である。管理者・職員は評価の意義について話し合い全職員で自己評価に取り組み、ケアサービスの向上と振り返りの機会としてとらえている。職員のローテーション改善についての意見が出されて検討をしている。 | | |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議は定期的に行われている。地域高齢者との交流を深めるために出された提案は体育大会への参加や奉仕作業・公民館で行うしめ縄作りへの参加呼びかけがあり実践している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|--|-----|---|
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市政便りにホームの紹介をしてもらったり、市の担当者に運営・サービスについて相談しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 毎月発行しているホーム便りや行事写真を送付している。また来訪時や電話で日々の暮らしぶりや身体状況を報告している。金銭管理は出納帳の記録により管理し毎月報告している。 | | |
| 8 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に意見箱を設けている。苦情処理ファイルを作成しており、意見が記録されて面会時に職員は話す機会を作り、意見を出しやすい雰囲気づくりに心がけている。居室でのクーラーの使い方や病院受診時の連絡方法についてなどの要望に対応し運営に反映している。 | | |
| 9 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の異動はなるべくないように心がけているが開設間もないこともあり、職員異動が多くなじみの関係が希薄である。 | | 職員と利用者・家族などとのなじみの関係を重要視したケアを心がけるために異動の少ない環境づくりが望まれる。 |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 開設間もないこともあり、職員の研鑽意欲はあるが研修に参加する機会が少ない。 | | 年間研修計画を立てて段階に応じた研修に参加し、研修報告により、職員の技術や知識の向上に活かされる事が望まれる。また資格取得にチャレンジする職員の支援なども期待される。 |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地区グループホーム協議会に加入している。認知症サポーター研修に参加したり利用者・職員と一緒に他グループホームとの交流や相互訪問等積極的に行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|---|--|-----|----------------------------------|
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居希望の際には施設や病院に行き本人と面談したり家族・主治医などにより、生活状態・思いや不安を十分に聞いている。またなじめるように十分な説明をし、信頼関係を築き不安なく入居出来る様に取り組んでいる。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は利用者に寄り添いながら、一人ひとりの得意とすること(食事作り、洗濯物干し、タタミ、掃除、畑仕事)などしてもらって料理の味付け・農作業の仕方など教わっている。また新聞紙でくずかごを作った事に感動したり、感謝の言葉に励まされながら支え合っている。 | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの思いや意向の表現は口頭で表現したり言動や表情で表現している。見守りと傾聴に心がけ、思いや意向の把握に努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人の状態や生活歴・希望を把握し、家族などの思いを聞き、カンファレンスで職員の意見を出してもらい、それらを反映した本人本位の介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 3ヵ月毎の見直しをしている。状態変化に応じてモニタリングを行い、カンファレンス時に評価をして見直しに活かしている。また入退院時の見直しも行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|--|-----|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 本人・家族などの状況に応じて病院受診、墓参り、自宅訪問、特別な外出(友達宅・お寺・買物)など必要な支援を柔軟に行っている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族などが希望しているかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化や終末期に対しては開設間もない為事例はないがホームが支援できる方向性を統一した指針は作られている。 | | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 利用者を人生の先輩として敬い、誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。 | | |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事・就寝・入浴・レク・作業など職員の業務優先でなくその人の生活リズムに留意しながら本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|--|---|-----|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 菜園で収穫した季節野菜の下ごしらえや調理・買物などできる事をしてもらい、職員も一緒にサポートしながら楽しく食事をしている。 | | |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴日は決められているが利用者の希望や身体状況に合わせて支援している。また同性介助に心がけてシャワー浴・清拭・足浴の支援もしている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | (食事作り・畑仕事・新聞の購読・裁縫・掃除)など利用者の趣味や特技を發揮できるようにしている。また外食や自宅・知人宅訪問・墓参りなど気晴らしの支援をしている。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 日常的には散歩や買い物・ドライブに行っている。弁当を持参して花見、イチゴやみかん狩り、保育園の運動会見学・地域行事参加など出かけて閉じこもらない支援に努めている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 職員は鍵をかける事の弊害を理解している。プライバシーに配慮しながら見守りに努め外出の際には職員が寄り添って一緒に出かけている。一人ひとりの居場所の把握に努め安全に自由な暮らしができるように支援している。 | | |
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回消防署の指導のもと職員・利用者参加で災害訓練をしている。また災害(竜巻)発生時には迅速な援助と協力が得られている。災害時の備蓄は確保できている。 | | 災害訓練は昼間想定と職員・利用者のみであるため、夜間想定と地域住民の参加を呼びかけて協力関係を築いて行う事が望まれる。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|---|-----|---|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量・水分量をチェックして一人ひとりの摂取量を把握している。身体状況に合わせて食材を小さく切って提供している。また栄養バランスは栄養士のアドバイスをもらっている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居住空間は明るく、温度や換気・臭いや音に配慮が行き届いている。床はクッションフロアになっており、危険がなく随所にソファやベンチが置かれて家庭的な共用空間となっている。 | | |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 寝具・位牌・写真・ぬいぐるみなどなじみの物が持ち込まれている。 | | 利用者に落ち着いて生活してもらうために何が必要であるかを家族などと相談しながら、より心地良く過ごせる居室作りを工夫される事が望まれる。 |